救急車を上手に使いましょう

～救急車 必要なのはどんなとき？～

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増加しております。

その中には、「タクシー代わり」に呼んだり、「救急車で行くと早く診てもらえる」などで要請されるケースもみられます。

救急車は、ケガや病気などで緊急に医療機関に搬送しなければならない人のためのものです。

救急車や救急医療は限りある資源です。いざという時、あなた自身のために救急車の適正な利用についてのご理解をお願いいたします。

119番への「間違い通報」急増中！

最近、携帯電話から119番への「**間違い通報**」が急増しています。

原因としては、単純な操作ミスによる通報以外に、特に多いのが、スマートフォンの緊急通報機能(注1)からの間違い通報で、本人が意図しない何らかの要因で作動し、119番通報されるものです。

ケース1	ケース2
「子どもが触った」「手に持っていただけで」など、スマートフォンを誤って操作し通報されたもの。	「ポケットやカバンに入れて気づかないうちに」など、スマートフォンを操作していないのに通報されたもの。

誤って１１９番通報した場合は、無言で電話を切らずに、「間違い通報」であることをお知らせください。

無言で電話を切られると、万が一の事態を想定して救急車を出動させたり、消防署から確認の電話を何度も掛けたりすることがあります。

注１：緊急通報機能とは、スマートフォンのロック画面から、セキュリティ解除をしなくても１１０番・１１８番・１１９番など緊急通報ができる機能です。

設置はお済みですか？ 住宅用火災警報器

一般住宅等への完全設置義務化から12月1日で2年半が経過しました。

あなた自身はもちろん、大切な**家族の命**を火災から守るため、早急に設置しましょう。

良かった～！！ 付けとって。

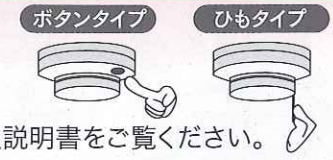
住宅用火災警報器を設置していたため、大事に至らなかったケースが報告されています。

事例1 就寝中に住宅用火災警報器の警報音に気付き目覚めると、ベランダの室外機と室内のカーテンが燃えており、急いで水をかけ消火し大事に至らなかった。

事例2 ベッドの上でたばこを吸い寝込んでしまった。住宅用火災警報器の警報音に気付き目覚めると、寝具類が燃えていたため、近隣住民と消火し大事に至らなかった。

「いざ」という時のために。

住宅用火災警報器は、命を守る大切な機器です。
日頃からお手入れや点検をしましょう。



☆点検方法

ボタンを押したり、ひもを引いたりして行えます。詳しくは、製品の取扱説明書をご覧ください。

☆お手入れ

ほこりが付くと煙や熱を感知しにくくなります。乾いた布で拭くなどしましょう。

※　住宅用火災警報器の取付け支援活動を実施しております。対象者は『自身で設置が困難な高齢者等の世帯』に限ります。

※　設置状況について、消防職員が各家庭を訪問することがありますので、ご協力をお願いします。ただし、消防職員が販売・斡旋をすることはありません。悪質な訪問販売にはご注意ください。

※　お問合せは、最寄りの消防署又は予防課（☎３２－９２２７）まで。